

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その72

文：井上 忠

いでと さんぺい 出戸集落「三瓶」姓のルーツ

奥川の出戸集落は、町北西部の新潟県境近くに位置し、古くは喜多方と津川を結ぶ街道筋でもありました。この集落には「三瓶」姓が比較的多くあります。それは、かさわぎじょう（北塩原村大塩）の城番（城主）であった「三瓶大蔵一族がこの地に移り住んだ」からであると伝えられています。

「柏木城」は、伊達氏による会津侵攻防衛のため、天正12年（1584）に芦名盛隆あしなもりたかの代に築城されたといわれています。東西500m、南北450m、馬場や空堀からぼりを備える大きな山城でした。この城跡は現在、国史跡として指定されています。ここの城番が三瓶大蔵重實しげざねであり、城には常時150騎の馬と2000～3000人の兵を備えていたといわれています。



大法寺の碑

天正13年（1585）、松原を攻略した伊達政宗は翌年松原に山城を作り、さらに柏木城を攻めています。さらに天正17年（1589）、政宗は会津領主芦名義広よしひろと猪苗代・摺上原すりあげはらの戦いで勝利し、会津は伊達氏の支配となったのです。この会津の敗北によって会津領主芦名義広は生地の常陸国（現在の茨城県）へ戻り、芦名氏に仕えた三瓶一族は、伊達氏に下ることを潔よしとせず柏木城に火を放ち退却、奥川や金山町、只見町などにそれぞれ移り住んだと伝えられています。奥川の出戸集落へ移り住んだのは、城番三瓶大蔵重實の子・重氏しげうじ（重實の長子？）と思われ、現在の三瓶姓はその一族子孫であると考えられます。また、会津若松市御旗町おはたの大法寺本堂脇にある碑には、三瓶氏の系譜として、『古くは房州（千葉県房総半島南部）にあり、伊達家に仕えたのち会津の芦名盛氏公もりうじに仕えた』とあります。



現在の出戸集落



8ページに掲載した西中と西高の卒業生の皆さんは、私が広報紙担当になって間もない頃に取材した入学式で新入生だった皆さんです。この3年間でさまざまな場面を取り上げさせてもらった皆さんの卒業は、家族や在校生、先生方とは一味違う感慨深さがありました。新たな一歩を踏み出した皆さんのさらなる活躍を心より祈っています。（秦）

編集後記

今月は、昨年4月にドローンで撮影された桜咲く西会津国際芸術村です。今年は3月から暖かい日が続いたため、桜の開花も例年より早まることが予想されています。満開の時期が楽しみです。

今月の表紙

今月は、昨年4月にドローンで撮影された桜咲く西会津国際芸術村です。今年は3月から暖かい日が続いたため、桜の開花も例年より早まることが予想されています。満開の時期が楽しみです。